

令和6年度 島根県立大東高等学校 卒業証書授与式 校長式辞

式辞

春の足音が聞こえ始め、日差しに温もりを感じる季節となりました。

本日ここに、雲南市長 石飛厚志 様をはじめ、多くのご来賓の皆さまをお迎えし、令和六年度 島根県立大東高等学校 卒業証書授与式 を挙行できますことを心より感謝申し上げます。

卒業生のご家族の皆さま、本日は誠におめでとうでございます。お子様の高校卒業という大きな節目を迎えられたことに、心からお祝いを申し上げます。この晴れの日を共に、多数ご出席いただきましたこと、本当に嬉しく思っています。この三年間、本校での教育にお力添えをいただき、本当にありがとうございました。

大東高等学校 第七十七期 となる七十七名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。教職員を代表し、皆さんに心よりお祝いを申し上げます。

担任の呼名に応じる皆さんの声からは、三年間の高校生活をやり遂げた誇りと自信が感じられました。

多少の緊張の中にも、これまでの努力と成長の軌跡が刻まれているように思います。皆さんは今、新たな世界へと踏み出す節目に立っています。これからの社会は、急速な変化と複雑な課題に満ちていますが、どうかその中で果敢に挑戦し、地域社会の発展に貢献していきましょう。

皆さんが大東高校に入学した令和四年四月から、成人年齢が 18 歳に引き下げられました。それから三年の月日が流れ、今日ここにいる皆さんは高校を卒業し、法的にも大人としての責任を負う存在となります。これから皆さんは一人の社会人として、また組織の一員として、さまざまな場面で責任ある判断と行動が求められることでしょう。そこで今日は、そんな皆さんに少しだけ考えていただきたいことがあります。

社会には、人々の権利を守り、秩序を維持するために、多くのルールや規範が存在します。また業務を円滑に遂行するためのマニュアルも整備されています。これらは、人権の尊重、安全の確保、そして社会の調和を実現する上で欠かせないものです。しかし、ルールにただ盲目的に従うだけでは、時にその本質を見失い、不合理な状況を生み出してしまふことがあります。そのことを考えるきっかけとして、二つのエピソードを紹介します。

あるハンバーガーショップでの話です。

孫の野球の試合を観戦していたあるお爺さん。孫から、

「試合が終わったらみんなでハンバーガー食べたいな！」と言われました。

お爺さんは奮発して、チーム全員に差し入れをしようと思い、試合の途中で近くのハンバーガーショップへ行きました。そこでの、店員との会話です。

「いらっしゃいませ。ご注文はお決まりですか？」

「ハンバーガーを 30 個ください。」

「ありがとうございます。店内でお召し上がりですか？」

「え？・・・。」 お爺さん、思わず言葉に詰まりました。そして少し、イラッとしました。

一人で来店したお年寄りが 30 個のハンバーガーを一人で平らげる場面を、この店員は予想したのでしょうか。いや、おそらく何も考えず、マニュアル通りの対応をしてしまったのでしょうか。気持ちの良い接客をするためのマニュアルが、逆に客の気持ちを逆なでしてしまふ。マニュアルの持つ落とし穴、その例です。

一方で、こういう話もあります。東京ディズニーランドの中にあるレストランでのお話です。

ある若い夫婦がレストランを訪れ、テーブルに座り、食事のオーダーをしました。

「Aセット一つと、Bセット一つ・・・。」

ウェイトレスが注文を聞きその場を離れようとした時、夫婦はしばし顔を見合わせ、

「それと、お子様ランチを一つ頂けますか？」と言いました。

ウェイトレスはテーブルを見渡し、

「お客様、誠に申し訳ございませんが、お子様ランチは小学生のお子様までと決まっておりますので、ご注文は頂けないのですが・・・。」

するとその夫婦はにっこり微笑んで、

「すいません、それなら結構です。」と言いました。

しかし、どうしても気になったウェイトレスは、勇気を出して尋ねました。

「失礼ですが、お子様ランチはどなたが食べられるのですか？」

その夫婦はしばらく顔を見合わせた後、話し出しました。

「実は、私どもには以前子供がいました。しかし、幼くして亡くなってしまって、一度もディズニーランドに連れてくる事が出来ませんでした。子供を亡くしてからは、しばらく何をやる気力も起きず、呆然と毎日を過ごしていたのですが、最近ようやく落ちついてきたので…。今日は、亡くなった子供の誕生日だったものですから、親子三人で一日楽しもうとディズニーランドにお邪魔したのです。思い出に三人で一緒に食事をしようと思ってつい、お子様ランチを頼んでしまいました。あ、でも今日はもう十分楽しませて頂きましたので…。」

そう言いながら二人は再び、ウェイトレスに微笑みかけました。

ウェイトレスはその場で夫婦に頭を下げ、

「かしこまりました」と答えました。

その数分後、運ばれてきたのは夫婦のオーダーした料理と『お誕生日おめでとう』のプレートが立ったお子様ランチでした。子供用のイスを持ったウェイトレスもいました。

「お客様、大変お待たせいたしました。ご注文のお子様ランチをお持ちいたしました。お子様のイスは、お父さんとお母さんの間でよろしいですか？それでは、ゆっくりと食事をお楽しみください。」

ウェイトレスはそう言って頭を下げ、その場を去りました。

後日、この夫婦から手紙が届いたそうです。

「あの日、食事をいただきながら涙が止まりませんでした。まるで娘が生きているような家族の団らんを味わいました。あのような優しい思い出をいただけるとは、夢にも思いませんでした。今度はあの子の妹か弟を連れて、きっとまた遊びにきます。」

このウェイトレスの行動は、店内の接客マニュアルに違反したものです。しかし、結果としてお客様にとってはこの上ない「おもてなし」となりました。

皆さんはこのエピソードからどんなことを感じ取ることができたでしょうか。仕事を円滑に行う上でマニュアルは大切なものであり、必要なものです。これを無視して行動することはできません。しかし、マニュアルでは対応しきれない事態は必ず起こります。その時にどのように考えてどんな行動がとれるのか、人の価値はそこで決まると言っても過言ではありません。

かつて、アルベルト・アインシュタインは、「教育とは、学校で学んだことをすべて忘れてしまった後に、個人の中に残っているもの」と定義しました。「学校で何を学んだか」ではなく、世の中の問題を解決するために独自に考え行動できる人間になれたかどうかが大切なのだと言っています。

これから皆さんが課題や問題に直面した時、冷静に目の前の人を思いやり、目の前にはいない人々を思いやり、社会への影響を思いやる。そして行動する。AIが世の中を席卷し、人間の役割が問われる時代であるからこそ人としての価値をしっかりと発揮できる人間であらねばと思います。

大東高校で三年間を送った皆さんは、きっとそんな行動ができる人間になってくれていると信じています。

この卒業とともに、皆さんはそれぞれが異なる道を歩み始めます。皆さんがこれから踏み出す社会は、立ち向かうべき課題は山積していますが、その一方で、広く世界を見渡せば、私たちは恵まれた時代に生きているとも言えます。そのことに感謝し、強い意志と誇りを持ち、一人ひとりが幸せな人生を歩んでくれることを期待しています。

今日のこのよき日、七十七名の卒業生の、限りない成長と幸福を心から祈念して、式辞といたします。

令和七年三月一日

島根県立大東高等学校 校長 陶山裕史